

第54回造本装幀コンクール 受賞者インタビュー

出版文化産業振興財団賞：

『《展覧会記念版》榎椀に目鼻のつく話』



©佐藤祐介

装幀者

iD. 泉屋宏樹 氏

●御社の活動について教えてください。

デザインとアートを横断的に捉え、広告デザインをはじめブックデザイン等、幅広く展開。近年、泉鏡花記念館のシンボルロゴやイラストレーター中川学氏装画による鏡花本や初作品集の装幀、アートディレクションを担当。過去に第47回造本装幀コンクール

アジアデザイン賞 (2013. 2017/香港)

A' Design Award & Competition (2019/イタリア)

Indigo Design Award (2020/オランダ)

2021 MUSE CREATIVE AWARDS (2021/アメリカ)

受賞、他。

●今回の作品のような造本にされたのは、どういった経緯があったのでしょうか。

※動画参照

●応募したきっかけや、受賞の知らせの感想、周囲の反応など、いかがでしたでしょうか。

2019年3月に刊行した後、金沢、京都、東京と原画展や刊行記念イベントなどを開催していた中、コロナ禍となり、どのような形でこの本を伝えようかと模索していました。その中で、以前にも出品し受賞経験のある当コンクールに出品する事で、少しでも新しい良い流れが生まれればと思い応募いたしました。

そして今回、受賞連絡をいただき、正直驚き、喜びと共に少し報われた、というのが本音です。それくらい試行錯誤し苦労を重ね制作した本であり、このご時世で笑顔になれる良いニュースをお伝えできる事の喜びが一番大きかったです。もちろん一報を伝えた際は、関係者をはじめ本の存在を知らなかった方々からもお祝いの連絡をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

●今回の作品制作で、こだわった点や苦勞した点を教えてください。

※動画参照

●一般の方には「造本」という言葉になじみがないかもしれませんが、「“造本”の観点から、本を視る」ポイントがあったら教えてください。また、電子書籍が広がる中で、紙の本への思いや良さなど、お聞かせください。

デザイン面だけではなく、泉鏡花の物語、イラストの世界観をはじめ、カバー、見返し、本文の紙、箔押し加工、本来の本自体の魅力を引き立たすためバーコード表記を無くしたところなど、まずは手にとって“本の存在”を感じていただければ嬉しいです。

また造本、装幀という世界は、今までもいろんな方が方法に興味を持っていただく機会を模索していると思いますが、メディアが多様化する今だからこそ、音楽や映画の世界のように、入り口としてTVで誰もが気軽に見てもらえる造本装幀、または単純に「本の世界」と名打った専門番組を持ってほしいです。まずはこれからの世代に新しい価値を生む機会を与え、日本のものづくり、造本技術の素晴らしさ、面白さを知ってもらいたいです。(了)



※インタビュー動画はこちらからご覧いただけます。